

原爆と人間展に2011人

9月24日から10月1日まで、土浦市役所新庁舎（JR西口旧イトーヨーカ堂）5階の県南生涯学習センターロビー

で行われた「2015原爆と人間展」に、期間中延べ2011人が参加しました。核兵器全面禁止の署名は154筆でした。

「標的の村」でおなじみの高江ヘリパット建設反対および辺野古埋め立て反対現場での支援・連帯行動に参加するとともに、世界一危険な普天間基地、あきれるほど広大な嘉手納基地の視察やひめゆり平和祈念資料館、沖縄県平和祈念資料館、瀬長亀次郎氏の不屈館などの見学を通し、凄惨な沖縄戦史、今なお続く日米政府による理不尽な軍事的支配の現状を学ぶとともに、基地撤去や平和を願う沖縄県民の不屈なたかいとその根底にあるものの一端に触れることができた。

リレー随想

平和祈念資料館のしおりに“沖縄のころ”とは「人間の尊厳を何よりも重く見て、戦争につながる一切の行為を否定し、平和を求め、人間性の発露である文化をこよなく愛する心であります」とある。

沖縄戦では本土防衛の最前線に沖縄県民が動員され、米軍の火炎放射器や砲爆撃などによる殺戮、日本兵による住民虐殺、集団自決、餓死など県民12万人、4人に1人が犠牲になった。その大部分は子どもを含む民間人である。その典型がひめゆり部隊、限りない可能性を秘めた女学生240名が陸軍病院に配属され、戦局が不利と見ると日本軍は「解散命令」で戦場に放り出し、100名以上が殺害や自決で命を失うなど凄惨な事実を沖縄の人たちは身を持って体験している。そして26年に及ぶ米国占領下での強制土地収用と多数の米軍基地建設、県民に対する数々の人権じゅうりんや弾圧、朝鮮、ベトナム、さらにはイラクやアフガン戦争への出撃基地として苦難の歴史を背負されてきている。

今また安倍政権は選挙で示された民意を無視し辺野古への新基地建設やオスプレイの配備など米軍の言いなりに基地強化に乗り出し

ている。これほど沖縄のころを踏みにじるものはない。心の底から戦争を憎み平和を願う沖縄県民の声は何よりも重いものがある。

先の総選挙でのオール沖縄の勝利、権力の脅しや切り崩しに抗し新基地建設は許さないという翁長知事の決意、そして高江や辺野古での命がけのたたかいの根底には“沖縄のころ”があり、本土復帰運動や平和運動、基地反対闘争などで培った不屈なDNAが引き継がれているからではないだろうか。

貴重な動植物の宝庫ヤンバルの森、さんご礁の海に囲まれた自然豊かな沖縄、悠久の歴史と文化に育まれた沖縄の地には戦争や軍事基地は決してなじむものではない。この旅で中国や台湾など外国からの多くの観光客と出会った。古

くはアジア諸国の交易の地として栄えた沖縄から一刻も早く基地をなくし平和で豊かな沖縄を願う。

戦争法案が強行成立されたことで沖縄や本土の基地強化、軍事国家への動きが強まることが予想される。新基地建設反対は沖縄だけではなくオールジャパンの課題である。

(近藤 輝男)

沖縄・平和の旅 で感じたことは

